

神楽名

なが うち 永の内神楽

伝承地

永の内地区
高千穂町大字岩戸

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

上永の内神楽保存会
代表 工藤 守
下永の内神楽保存会
代表 佐藤 雄一



舞 開

◆ 神楽の概要・由来・その他

岩戸永の内地区は、^{ごりょう}御霊神社を^{うじがみしゃ}氏神社とする世帯数68戸の^{かみなが}上永の内公民館と、^{あまのいわと}天岩戸神社東本宮を氏神社とする世帯数78戸の^{しもなが}下永の内公民館で構成されている。古くは岩戸村の中心地で、戦国時代には延岡・県北を支配した^{つちもち}土持氏の一族である、^{とだかしょうげんまさしげ}富高将監昌重が岩戸城主として入郷した。上永の内の御霊神社は、土持・富高一族の御霊を祭祀する神社であったが、後に祖母嶽明神や菅原天神が合祀されている。天照皇大神を祭祀する天岩戸神社東本宮は、古くは「^{うじしゃだいじんぐう}氏社太神宮」と称され、参道は岩戸往還の通り道であった。

永の内神楽は高千穂神楽の岩戸系統に属する。岩戸地区の神楽は昭和29年から30年にかけて、伝承を守るため^{ほしや}奉者が天岩戸神社で協議し、^{しやうぎやう}番付や唱教の統一が行われた。岩戸地区には、他の高千穂神楽はみられない「^{じやきり}蛇切」が伝承されており、^{すきのおのみこと}素盞鳴尊の八俣の大蛇退治の舞が高千穂らしい静かな一人舞で奉納される。

◆ 芸能の機会・場所

- 上永の内夜神楽... 11月の第4土・日曜日、御霊神社にて神事後、神楽宿にて奉納
- 下永の内夜神楽... 11月の第2土・日曜日、天岩戸神社東本宮にて神事後、神楽宿にて奉納

◆ 演目一覧

宮神事	^{ごしんこう} 御神幸	^{みちかぐら} 道神楽	舞込み	^{みこうや} 御神屋	^{たいどの} 太殿	^{かみおろし} 神降	鎮守
^{すきのほり} 杉登	^{じがため} 地固	^ひ 幣かざし	^{ゆみしょうご} 弓正護	住吉	岩くぐり	^{ごしんたい} 御神体	^{そではな} 袖花
^{しば} 柴のり	五穀	^{しちきじん} 七貴神	^{じやきり} 蛇切	^{やつぱち} 八鉢	^{ぶち} 武智	^{よにんちんじゆ} 四人鎮守	^{おきえ} 沖逢
^{だいじん} 大神	^{やまもり} 山森	^{しばひき} 柴引	伊勢	^{たちから} 手力	^{うずめ} 鈿女	^{ととり} 戸取	^{まいひらき} 舞開
^{くりおろし} 繰下	^{くもおろし} 雲下						

※平成27年11月の上永ノ内神楽奉納番付に基づく

❖ 演目の特徴

岩戸地区には彦舞の伝承がなく「太殿」が最初の舞神楽となる。その後、前半は祓い清めの舞や、諸々の神を招く舞が続く。永の内神楽では、神庭こうにわの四人の舞手が塩水で手を浄め、七輪の炭火を手渡しで回す「炭通し」の儀式が、水難除け、火伏せの願神楽の「沖逢」おきえで行われる。「住吉」では、舞の途中に山森荒神が獅子を引き連れて舞い込み、また龍王四人舞の「山森」では乳幼児を抱きかかえて舞い、無病息災・成長祈願神楽として奉納される等の特徴がある。夜明けには岩戸開きの神話にちなんだ「岩戸五番」(「柴引き」「伊勢神楽」「手力男」たちからお「鈿女」うずめ「戸取り」まいびらき「舞開」の六番)が奉納され、最後に「繰下」くりおろし「雲下」くもおろしで神々を送って終了する。

❖ その他の特徴

- 面... 岩戸地区では、天岩戸神社所有の面が「岩戸五番」に使用される。氏神さまの面は各集落内で保管されており、「入鬼神」「地割」「御柴」「舞開」などで使用する
- 楽... 太鼓、笛
- 装束... 白衣、白袴、素襖すおう、千早たっつけはかま、裁着袴、どっさり 等。赤い襷を頭に巻き、左右両側で結び垂らす「みずら」が多く使用される
- 採り物... 鈴、榊、扇、御幣、杖(荒神杖等)、弓、矢、刀、折敷おしき、帯 等
- 文書... 「天岩戸神社社家伝承 岩戸神楽の由来(唱教・御幣の切り方・御注連の飾り方)」(昭和30年11月)が保管されている

❖ 伝承の現状・課題

永の内神楽は、上永の内神楽保存会12名、下永の内神楽保存会13名、合わせて25名で伝承されており、それぞれの夜神楽は両保存会の協力により奉納されている。また当日には岩戸の他の地区から舞い手の加勢も加わる。



弓正護



戸取



山森